

以前より、「がん家系」という言葉が使われてきました。「身内のほとんどががんにかかっている、たぶん自分もがんになるから、長生きはできないだろう」。このように考えている人は大勢います。つい最近までは、医療者も同じ思いをしていました。「この患者の家族はみんながんにかかっている、きっと子どももがんになるだろう、しかしそれを正確に予測する方法はないし、わかったとしても何もしてあげられることはない」。

# 遺伝子診療最前線 up to date

## ⑨ 遺伝性腫瘍とがんゲノム プロフィール検査の二次的所見

北大病院臨床遺伝子診療部

三田村 卓 (婦人科)

場に変化が現れつつあります。

ポイントには、大きく4点あります。

①家族もがんにかかる危険性が高い場合、体のどの部位に、何歳くらいで発症するかを予測できる。その情報を利用してよく検討しておけば、人生設計に合わせてがんが

発生する臓器を先に手術で摘出することにより助かるかもしれない。②子どもや兄弟姉妹など、本当に病

③放射線被ばくなどによる原発性がんの発症を避けることができる。

④すでにがんを発症している患者の場合、有効な治療薬が見つかる

代表的な遺伝性のがんでは、遺伝性乳がん卵巣がん症候群を例に挙げ

て考えてみます。本症候群では、BRCA1ある検査を受けて同じ遺伝子

卵巣を摘出することが勧められています。卵巣が一度進行してしま

と治療が難しく長期生存率が下がってしまった

め、発症させないための対策が重要であり、実際に

検査を受けて同じ遺伝子変化を受け継いでいないことがわかれば、無用な心配をしなくて済むかもし

このような家系の女性では、特に40歳以降で卵巣がんの発症率が高くなる

ため、妊娠出産の予定はないと思う段階で卵管と卵巣を摘出することが勧められています。

卵巣が一度進行してしま

と治療が難しく長期生存率が下がってしまった

め、発症させないための対策が重要であり、実際に

検査を受けて同じ遺伝子変化を受け継いでいないことがわかれば、無用な心配をしなくて済むかもし

人々にとっては理解しや

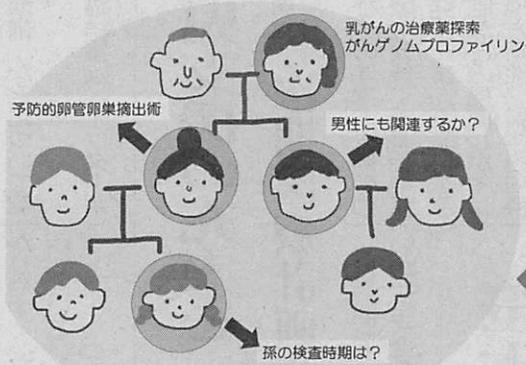
すいですが、時に思いが

けない形で遺伝性のがん

が見つかることもありま

す。近年、有効な治療法

性的に遺伝性のがんに



がなくて困っているがん患

者に対して、次世代シー

クエンサーを使用して数

百の腫瘍遺伝子を高速度

解析した結果をもとに有

効性の高い薬剤をその場合、全身状態が悪

偶然に現在のがんが遺伝

性腫瘍である可能性が示

唆されたり、さらには現

在のガンとは関係のない

床遺伝専門医や認定遺伝

効性の高い薬剤をその場合、全身状態が悪

そこでぜひ知っておい

ていたきたいのは、「遺

伝カウンセラー」の存

在です。専門家である臨

床遺伝専門医や認定遺伝

効性の高い薬剤をその場合、全身状態が悪

# 「医療措置協定」締結等

## 24年9月までに完了を

ライン通知  
ド省が  
ガイ厚

厚生労働省は、感染症法に基づき「医療措置協定」締結等のガイドラインについて、都道府県等に通知を行った。医療計画における新たな事業として「新興感染症発生・まん延時における医療」の追加、予防計画の記載事項の充実、都道府県と医療機関との医療措置協定の締結等が2024年4月1日から施行されるのに伴い、事前調査、協定の協議・締結の進め方、協定公表や報告・変更等、協定のひな形などを提示。協定締結作業につ

いて、23年度中から順次実施し、24年9月までに完了を目指すよう求められている。事前調査は、病院、診療所、薬局、訪問看護事業所を中心に行われる。協定の協議・締結の進め方では、コロナ対応実績などの事前調査結果、都道府県医療審議会等を含む協定協議のプロセスも活用して、広く地域における医療機関の機能や役割を確認し、医療提供の分担・確保を図る。例えば、コロナ重症医療機関の指定実績のある医療機関から協定締結の協議を開始することなどが考えられるとした上で、「協定は双方の合意であり、都道府県と医療機関で締結する協定の内容の齟齬がないよう、十分な協議を行う」「新興感染症発生・まん延時には、その感染症の特性に合わせて協定の内容を見直す」ことを明記している。

医療措置協定の対象は、新型コロナウイルス、指定感染症、新感染症の3つ。感染状況に応じた対応の段階を設定し、流

行初期（発生公表後3カ月まで）、流行初期以降（同6カ月まで）に分けて、重症者や患者種別ごとに見込み数を記載。「急性期病床だけでなく、地域ケア病床や療養型病床などの感染症対応を行う病床の元の病床種別・役割も考慮して、確保する病床について検討することが重要」としている。

### 医療的ケア児支援の充実を

総医協周産期小児検討委 次期医療計画議論

道総医協地域医療専門委員会周産期・小児医療業務環境改善、新興感染症藤原札幌大産婦人科学講

座教授）が開かれ、2024年度からスタートする次期・医療計画について議論した。

第8次医療計画策定に向けて、各圏域設定、協議会、ハイリスク妊産婦対応、在宅ケアへの移行支援、母子に配慮した周産期医療、医療的ケア児への支援、保健・教育・

域医療維持の両立が難しい場面もあるのではないか」「安全な分娩を確保する必要があるのでは

また医療的ケア児が増えていることから、次期計画の中で、療養・療育支援や各医療機関との連携などについて充実を求める発言も多々あった。

同委員会では、6月に「おたるイアクリニク（理事長）を再選した。2小樽市医師会は、任期満了に伴う役員改選を行い、現職の鈴木敏夫会長（おたるイアクリニク理事長）を再選した。2

また医療的ケア児が増えていることから、次期計画の中で、療養・療育支援や各医療機関との連携などについて充実を求める発言も多々あった。

同日から就任する。笹本氏以外の3人は、坂本泰三・兵庫県医療理事、佐原博之・石川県強化や会務増大への対応に向けて増員の方針を表明し、今年3月の第153回臨時代議員会で4人増の14人体制とする議案を可決していた。

### 笹本氏が日医常任理事に

同日から就任する。笹本氏以外の3人は、坂本泰三・兵庫県医療理事、佐原博之・石川県強化や会務増大への対応に向けて増員の方針を表明し、今年3月の第153回臨時代議員会で4人増の14人体制とする議案を可決していた。